

校名：弘前大学教育学部附属小学校

所在地 〒036-8152 青森県弘前市学園町1-1 電話番号：0172-32-7202

記載日：28年5月

記載者：大里公子 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について

本校は、本州北端の青森県にあり、**お城・桜・りんご**など観光の町弘前市の**南東部**に位置している。西側には四季折々に変化する秀峰岩木山が眺望でき、その壮麗な姿に見守られて子どもたちは通学している。

明治10年に開校し**来年度で140周年**を迎える。現在の校舎は平成19年に改修されたものである。

校庭は広く、中学校の校庭と隣接しており50本を超えるセメイヨシノに囲まれている。校地の一角に松林を有し、多くの樹木が点在し自然に恵まれたのびのびとした環境にある。

同地区に附属中学校、附属幼稚園があり交流、連携等の活動がスムーズに行われている。また、今年度より他地区にある特別支援学校との交流活動も開始した。

めざす学校像の中に「**若き紳士・淑女を育てる学校**」という標記があり。これは長年本校で大切にされてきた言葉である。礼儀正しく気品のある児童を育成することが、本校の校風となっている。



貴校の卒業生の活躍状況について

附属小学校出身者が各方面で活躍している話は良く耳にするが、本校卒業生の活躍状況の追跡調査は特に行っていない。卒業生の名簿は学校で管理しており、10年に一度行われる周年行事への参加や寄付のお願い、周年誌の協力を活用している。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について

勤務経験者の追跡調査は特に行っていない。ただ、青森県で出している「教育関係職員録」で現在の勤務地や役職については知ることができる。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

本校は、青森県における先進的教育研究校という存在として捉えられている。平成21年度より、公開研究発表会では毎年、国立教育研究所の教科調査官を招聘し、講演及び研究に対する指導・助言を受けている。また、公開研には例年600名近くの参加者がある。そのことから、国の教育の方向性をいち早く捉え、具現化し、研究授業等で広めるといった地域貢献に取り組んでいる。

また、前述の調査官らと協力し平成22年よりこれまで3冊の教育実践本を上梓した。平成22年は『授業における「活用」』（東洋館出版社：全177頁）、平成24年は『授業における「思考力・判断力・表現力」』（同：全144頁）、そして今年『共に学ぶ「アクティブ・ラーニングの視点をいかした授業」』（同全135頁）である。

このような取組により、地域の教育委員会及び公立学校より本校は**先進的教育研究校**であると認識されている。

また、近年では県内及び秋田県の市教育委員会から、研修会における本校職員の派遣依頼があったり、公立学校から校内研修の助言者、研究組織から実践発表者としての派遣の依頼が増えたりしている。

県教育委員会との連携も盛んに行われるようになり、本校及び附属中学校の公開研究発表会に参加することにより、10年研の講座の代替えとしたり、県教育委員会学校訪問による、授業参観及び研究協議会を行っている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について

前述したとおり本校は、青森県における先進的教育研究校であると捉えている。県内の公立小学校の多くは、校内研修の研修教科を国語や算数に設定しているが、本校では10教科にわたる研究及びその発信を行っており、地域の小学校教育の振興、向上発展に寄与している。

また、教育実習においては、2年次の生活体験実習（5日間）、3年次のTuesday実習（年間10日間）及び集中実習（3週間）、4年次の副専攻実習（2週間）等を行っており、大学で学んだ教育理論の現場への適用、児童理解および教育現場についての理解、専門的な指導技術の習得の場となっているのは言うまでもない。

もし、附属小学校がなくなった場合、年間180名を超える実習生の受け入を多くは地元の公立小学校へお願いすることとなり、公立小学校の教職員の多忙化を招くこととなる。また、統一した実習生への指導体制が確立されなくなり、指導技術の十分な習得や大学で学んだことの実践的適用がなされないことが懸念される。



青森県はこの先10年間、教職員の大量退職・大量採用が見込まれ、学級担任の半数以上が入れ替わると予想される。高度な実習を行い、即戦力になる優秀な人材を育てることは、青森県全体の教育の向上に直結するものである。


魅力ある、特色ある、または今後公立学校でも展開できそうな 先導的な取り組み

書籍の発刊と地域・全国への発信

本校では平成22年より今まで、文科省教科調査官と協力し、3冊の教育実践本を発刊している。

平成22年には『授業における「活用」』（東洋館出版社：全177頁）、
平成24年には『授業における「思考力・判断力・表現力」』（同：全144頁）
である。

授業における「活用」



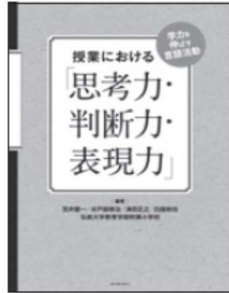
授業成功の鍵は「活用」にある!

【編者】
水戸部修治／澤井陽介
笠井健一／村山哲哉
弘前大学教育学部附属小学校

【定価】
本体2,600円＋税

教科調査官が「活用」の在り方を語る!
「活用」を生かした授業を弘前から発信!

授業における「思考力・判断力・表現力」



目指す子供の姿がひと目でわかる!

【編者】
笠井健一／水戸部修治
津田正之／白旗和也
弘前大学教育学部附属小学校

【定価】
本体2,000円＋税

「思考力・判断力・表現力」について、
豊富な実践をもとに徹底解説!!

5刷

そして今年の7月に『共に学ぶ「アクティブ・ラーニングの視点を生かした授業」』（同：全135頁）を発刊する予定である。

**アクティブ・ラーニング
の視点を生かした授業**

共に学ぶ

直山木綿子 NAOTAMA YUKO
弘前大学 教育学部附属小学校

津田正之 TSUDA NAOMASA
水戸部修治 MIYABE SHUJI
笠井健一 KASAI KENICHI

「どのように学ぶのか」
学習プロセスの充実こそ
授業改善の鍵である!

子供たちが
自ら課題を見つけ、
解決していくための
資質・能力を育む!

「深い学び」
「対話的な学び」
「主体的な学び」を通して
アクティブ・ラーニングを実現する!!

東洋館出版社

この本は昨年度の公開研究会にいらした4人の教科調査官（音楽～津田正之氏、国語～水戸部修治氏、算数～笠井健一氏、外国語～直山木綿子）に、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善についてご執筆いただき、本校の14の教科および領域にわたる24の実践事例を載せた実践本となっている。

手にした瞬間にアクティブ・ラーニングの視点を生かした実践がわかり、すぐに授業改善に取り組める内容となっている。

7月上旬より、全国書店およびネット書店にて発売する。

特色のある教育活動

学校放送を利用した活動（朝の業間活動）

本校では毎日朝に20分間の業間活動（もちタイム）が行われ、全校朝会や児童集会・音楽集会、学年集会、学校放送を利用した図書や給食の指導、全校外国語活動が行われている。特に外国語活動は「えいごでコミュケ」という番組形式になっており、キャラクターに扮した本校外国語担当教諭が進行している。英語での日常会話やチャンツや歌の紹介、先生方や子ども達へのインタビュー等々、楽しく活動できる内容となっており、児童に大人気の番組である。

縦割り班活動の実施と体験学習の充実

本校では全校縦割り班を組織し、毎日の清掃活動や縦割り班行事などを実施している。縦割り班で活動することで、日々の清掃において上学年が下学年に優しく教え面倒を見、下学年は上学年を見習い自然に黙働の態度を身につけている。また、縦割り班集会ではそれぞれの班の6年生がゲームや遊びを企画し、みんなで楽しめる活動を行い、集団としての自主性と子ども一人一人の社会性を育てることにつながっている。



また、体験学習を重視しており、四季を通しての弘前公園の散策、本学の農場を利用してたりんごやお米の農業体験、各施設の見学、海辺での宿泊体験学習等である。学年の発達段階に応じた体験学習を通して、体感を伴った学びの習得をめざしている。



特色のあるPTA活動

本校では全員参加型のPTA活動を実施しており、17の委員会が保護者を中心に自治的な活動を展開し、本校の教育活動をサポートしている。

特徴のある活動として、父親委員会による「学校に泊まろう会」には例年児童・保護者合わせて400名が参加し、夜の校庭で花火やバンド演奏鑑賞を楽しんだ後、学校の各教室に泊まっている。

また、図書委員会による「お話し会」は、委員の保護者が自作のペープサートや紙芝居を用いながら、各学年・各学級対象に楽しい読み聞かせを実施している。また、お話し会に合わせて図書室の環境を季節感あるものに整えている。